

真に社会に有益な企業を育成する

北京師範大学学生代表

見学日時：2018年11月30日（金）16:30-19:15

見学場所：伊藤忠商事

見学概要

伊藤忠商事に到着後、私たちはまず会議室において開発・調査部 海外室 寺澤エリアマネージャーからの詳しい紹介とビデオ資料により、伊藤忠商事の主な事業内容や沿革そして中国との交流の歴史について理解を深めた。その後、私たちは伊藤忠商事の約40名の中国語が堪能な従業員と懇親会の場で直接交流を図った。



なぜですか？

伊藤忠商事は1972年に総合会社として初めて日中貿易再開の批准を取得し、さらに初めて商務部より多国籍企業「地域本部」の認定を受け、中信グループ及び正大グループと三者協力を実施した企業である。また伊藤忠商事は「ひとりの商人、無数の使命」をコーポレートメッセージとし、社会的責任を確実に担い、利益の追求と同時に社会の発展に優れた貢献をしている。

感想

伊藤忠商事での見学において最も印象深かったのは、「ひとりの商人、無数の使命」というコーポレートメッセージであった。寺澤エリアマネージャーからの紹介で、伊藤忠商事はあらゆる分野にかかわり且つ大きな成果をあげているという印象を私は持った。だが、こうした点だけでは伊藤忠商事の素晴らしさを語るには不十分である。なぜなら利益の追求において優れた企業は少なくないからである。真に伊藤忠商事をフォーチュングローバル500入りさせ、さらに大きく発展させているのは、同社が受け継いでいる強い社会的責任感である。同社は自身の強大な財力を通じより良い世界を構築するために努力を続けており、環境保全、次世代教育、災害支援等、伊藤忠商事は限りある能力により無限の価値を生み出している。

経済効率のみを重視する企業は目まぐるしく変化する市場において発展を続けることはできない。なぜなら一企業にとって、持続可能な発展におけるもっとも重要な要素は最終的には消費者からの支持だからである。利益のみを追求するあまり消費者の利益を無視する、ひいては社会に悪影響をもたらすことをしては、その企業に待っているのは滅亡の一途である。

その上でより優れているのは、各従業員が「ひとりの商人、無数の使命」の原則を受け継いでいる点で、たとえ自身の能力に限りがあっても、力の及ぶ範囲で最大限の努力をしている。

伊藤忠商事と密接な協力関係にある我が国にとっては、伊藤忠商事から社会的責任感や団結力等多くのものを学ぶことができる。そして正に社会に足を踏み入れようとしている私たちにとっては、伊藤忠商事の従業員から初心や善美を尽くすといった多くのものを学ぶことができる。

今回の伊藤忠商事での見学では多くの収穫が得られた。その中でも重要なのは、真に市場において長く生存し発展を続ける企業は、自身の利益を追求するだけでなく経済活動を通じて現地の社会を発展させ、人々の生活を豊かにしているということである。